

保育の質の自己評価ガイドラインチェックリスト

保育所保育指針には「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と、規定されています

出石愛育園では、この規定を踏まえ、日頃から保育に従事している保育士自らが保育の内容や園運営に対する自己評価を実施しました。

今回の自己評価は、職員自らが評価を通して、保育の質の向上あるいは組織の運営に関する問題や課題点等を探り、次年度の保育計画や保育内容の向上、改善に努めると共に保育所としての専門性、組織力の向上に結びつけて行くことを狙いとしています。

評価の基準は以下のとおり、この1年間の保育を振り返り自らの実践内容や組織のあり方等を評価してみました。

園では、評価結果を次年度以降の人材育成や組織運営等に反映させ、より良い保育、保護者の皆様に信頼される園づくりを目指していきたいと考えています。

A…理解し、十分に取り組んでいる B…概ね取り組んでいる C…理解が不足し、十分に取り組んでいない 比較…昨年度Aのポイントとの比較を表している

(1)子どもの権利

人権保育について年間計画を立て研修を実施している。また適切な保育についてもセルフチェックを行い見直しを行ってきた。一人ひとりの子どもの行動や欲求に対する対応の仕方、子どもが理解できるような年齢に応じた言葉の選び方やかわり方を学んでいきたい。

項目	A	B	C	比較
① 子どもの権利を守る立場を自覚し、保育の中で十分に配慮している。	75%	25%	0	45% up
② 一人一人の子どもの行動や欲求に対して、穏やかに対応し、子どもが理解できるような年齢に応じたわかりやすい言葉を選び、応答的に関わっている。	50%	50%	0	20% down
③ むやみな制止や禁止、子どもの言葉や言動を無視する、不必要な大きな声、否定的・抑圧的・管理的な対応などをしていない。	50%	50%	0	→

(2)職員に求められる資質

年間計画を立て職員研修を行い、保育の質の向上に取り組んできた。職員間のコミュニケーションをさらに円滑にし、個人で向上するだけでなく、全体での共通理解と協働性を高めていきたいと思う。

項目	A	B	C	比較
① 子どもと関わることを喜び、子どもと一緒に楽しむことができ、積極的に保育に従事している。	88%	12%	0	→
② 職員間のコミュニケーションを円滑にし、共通理解と協働性を高めようとする行動している。	38%	50%	12%	12% down
③ 日頃の保育を定期的に振り返り自己評価し、保育の質を向上しようとする意欲がある。	50%	50%	0	30% up

(3)保育環境

子どもの月齢・年齢に応じて、主体的なあそびが展開できるような環境作りが不十分だと考えられる。園全体で話し合いや見直しを行い改善していきたい。

項目	A	B	C	比較
① 友だちと好きなことをして落ち着いて遊べる場所や一人でじっくりと楽しむことができる場所、体や心をゆっくりと休めたりくつろげる空間がある。	38%	62%	0	→
② 子どもの生活空間において遊具の素材・配置などの工夫をしている。	25%	75%	0%	25% down
③ 子どもの成長に合わせた玩具、遊具、絵本が子どもの手の届く場所に用意され、子どもが自由に遊び、主体的に遊びを展開できるように配慮されている。	25%	63%	12%	15% down

(4)保育内容

ア:乳児保育(1歳未満児)

一人ひとりの個人差の大きいこの時期だからこそ、一人ひとりに寄り添った対応、関わりを、職員間で連携をとりながら考えていきたい。

項目	A	B	C	比較
① 乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いので、一人一人の発育及び発達状態や健康状態について把握し、職員間で連携を取ったり嘱託医との連携を図り、適切な対応を行っている。	43%	57%	0	→
② 一人一人の子どもの生育歴の違いに留意しつつ、欲求を満たし、応答的に関わるようにしている。	71%	29%	0%	8%up

イ:1歳以上3歳未満児

一人ひとりの子どもの気持ちを尊重し温かく見守る姿勢を大切にしながら、個々への子どもへの関わり方を見直し、応答的なかわりができるように考えたい。

項目	A	B	C	比較
① 子どもの不安定な感情の表出については、受け止め、そうした気持ちから立ち直る経験や感情のコントロールすることへの気付きなどに繋げていけるように援助している。また、友達との関わりを丁寧に伝えている。	60%	40%	0	→
② 自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気付く時期であるため、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守り、愛情豊かに、応答的に関わっている。	40%	60%	0	26% down

ウ:3歳以上児

子ども一人ひとりが発達や特性に応じて育っていくように、環境を整え担任間で思いを共有しながら、子どもが安心感と信頼感をもって、自分らしさを発揮できるように援助していきたい。

項目	A	B	C	比較
① 子ども一人一人の置かれている状況を把握し、ありのままの姿を理解と見通しを持って受け入れ、子どもが安心感と信頼感を持って、自分らしさを発揮し行動できるように援助している。	25%	75%	0	22% down
② 幼児教育において育みたい資質・能力について、遊びや生活の様々な経験が相互に関連し合い積み重なっていくことに留意しながら、子どもの自発的な遊びを通して一人一人の発達の特性に応じて育っていくように環境を整えている。	25%	75%	0	→

(5)食育

食べることは、生きることの源であり、心と体の発達に密接に関係していることを理解したうえで食育計画を立てて実施している。今後も引き続き子ども達が食べることを楽しめるように援助していきたい。

項目	A	B	C	比較
----	---	---	---	----

①「保育所における食事の提供ガイドライン」をベースに、保育施設の食育に関する方針や目標が計画され、計画に基づき栄養士・給食調理員と保育者等が定期的に情報交換し、連携を図って食に関する取り組みを行っている。	71%	29%	0	8% up
② 子どもの状態に合わせて量を加減したり、大きさや柔らかさ、味付けや彩りなど細かい配慮を行っている。	86%	14%	0	26% up
③ 無理やり食べさせたりせず、子どもの気持ちに寄り添いながら給食の介助をしている。	71%	29%	0	→

(6)支援の必要な子どもの保育

一人ひとりの子どもの状態に応じた環境を設定し、専門機関と連携をとりながら適切な援助や配慮を行っている。さらに園内で情報共有をしながら園全体で援助の方法を考え保育を行って行きたい。

項目	A	B	C	比較
① 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	75%	25%	0	8% up
② 保護者の悩みに寄り添い、子どもの育ちや保護者の置かれた状況に関して、共に考える姿勢を持っている。	50%	50%	0	→

(7)健康

保育士と看護師が連携をとりながら一人一人の健康状態を把握し、その日の健康状態に合わせて機嫌よく過ごせるように配慮してきた。今後は保健についての園内研修を充実させ、園内での情報共有をしっかりと行いながら、感染症予防に努めていきたい。

項目	A	B	C	比較
① 子どもの入所入園の際に、既往歴および予防接種等の把握を行っている。入所入園後も地域で流行している感染症の情報を適宜保護者と共有したり、必要に応じて予防接種の勧奨を行うなど子どもの健康増進に努めている。	63%	37%	0	17% down
② 子どもの健康状態を把握し、体調に合わせて過ごすことができるよう配慮している。子どもの日々の健康観察を行い、子どもの健康状態がいつもと違う状況にある場合はその対応をするとともに、保護者に連絡をして対応の検討を行っている。	88%	12%	0	→

(8)安全管理

年齢や発達に応じて子どもの安全に考慮するとともに、危険に対する知識やその理由を丁寧に伝え、子ども自身が危険な場所や遊び方を知り、考えて行動できるように援助する。さらに安全面については新しい情報の収集を行い、それに合わせて職員間で確認・改善・情報共有を行う。

項目	A	B	C	比較
① 事故(プール遊び、水遊び、沐浴等を含む)や災害、不審者対応などにおける安全確保や事故防止についてリスクや注意すべきことが整理され、対応マニュアルの作成や全職員に周知するための研修、発生時を想定した訓練などを行っている。	88%	12%	0	28% up
② 感染症発症時には、施設内掲示などで保護者に伝達したり、施設内の衛生管理を徹底するなど、保護者の協力や職員の連携などにより感染拡大防止に努めている。	88%	12%	0	28% up
③ その日の子どもの様子や活動内容における安全管理について、職員同士で事前の確認、下準備などを行うとともに、子どもの行動を予測し職員同士が声を掛け合いながら保育を実践している。	63%	37%	0	→

(9)子育て支援

子どもの成長を保護者と共有できるように送迎時のコミュニケーションやイロドリによるドキュメンテーションの配信に力を入れてきた。また行事では保護者アンケートの結果をもとに次の行事のあり方について検討を進めている。

項目	A	B	C	比較
① 登降時間の会話や連絡帳、活動の記録などの日々のコミュニケーション、行事などあらゆる機会を通じて保育の意図、子どもの状況などを保護者と連絡を取り合っている。	63%	37%	0	13% up
② 育児不安などがみられる保護者に対し、保護者の思いや家族の状況、保育施設での子どもの様子(発達や行動特徴等)を踏まえ、援助の仕方を一緒に考える姿勢を持ち支援を行っている。	50%	50%	0	20% up

(10)運営体制

職員が安心して業務に従事し、自らの専門性を高める意欲を持ち続けられるよう健全な経営に努めるとともに、適切な保育環境の整備に努める。職員一人ひとりが目標に向かって取り組めるようなキャリアパスの整備に早急に取りかかりたい。

項目	A	B	C	比較
① 職員が安定して働き続けることができるよう、ワークライフバランスの実現や心身の健康管理の環境づくりに取り組んでいる。	14%	86%	0	6% down
② 職員が自らの目標に向かって取り組めるようキャリアパスが明確に示され、それに合わせた研修体制が整えられている。	29%	71%	0	19% up